



律必携

三編

上

7 13
6549
6



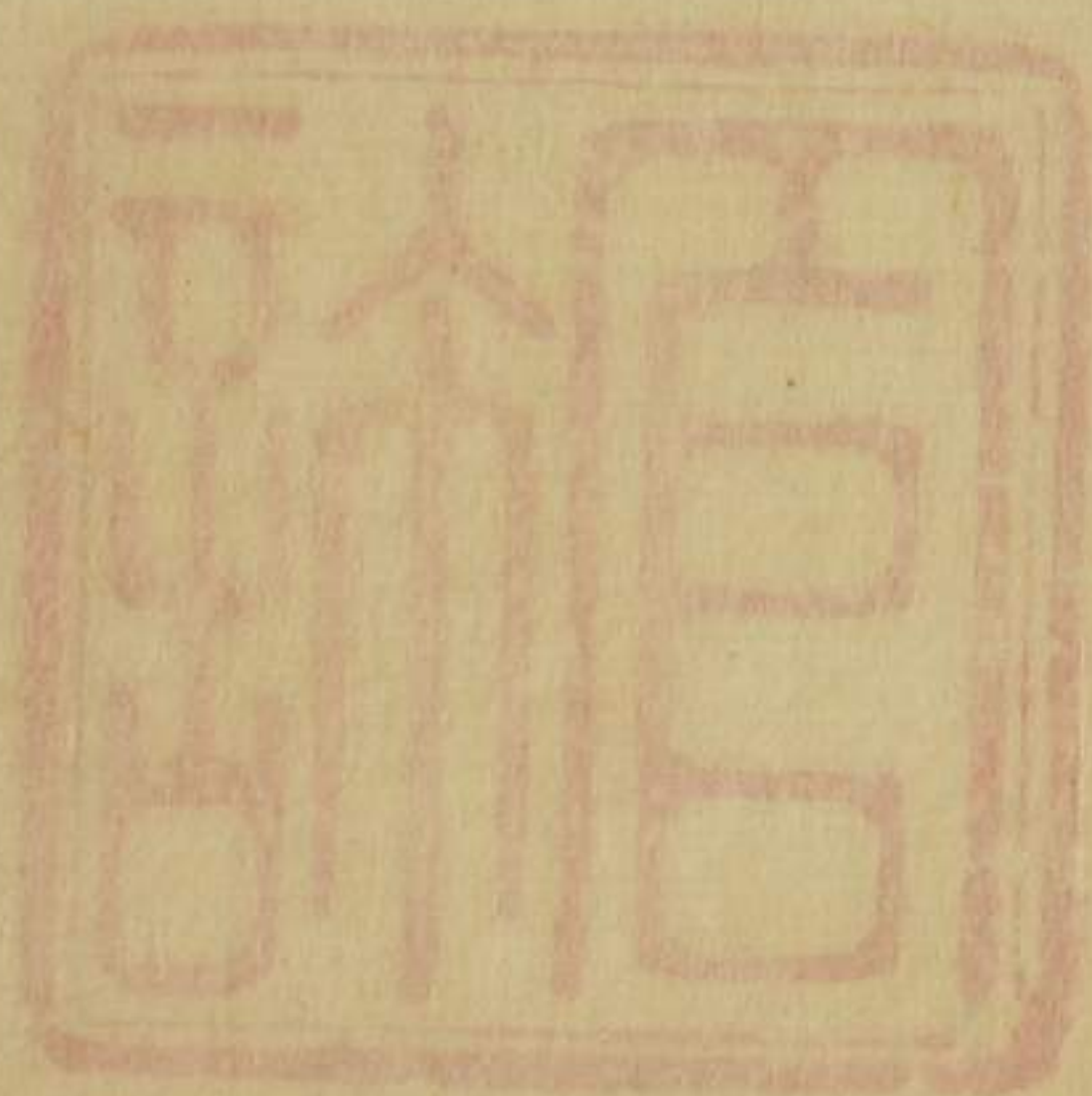
橫山成教
小川重喬
渡邊義雄

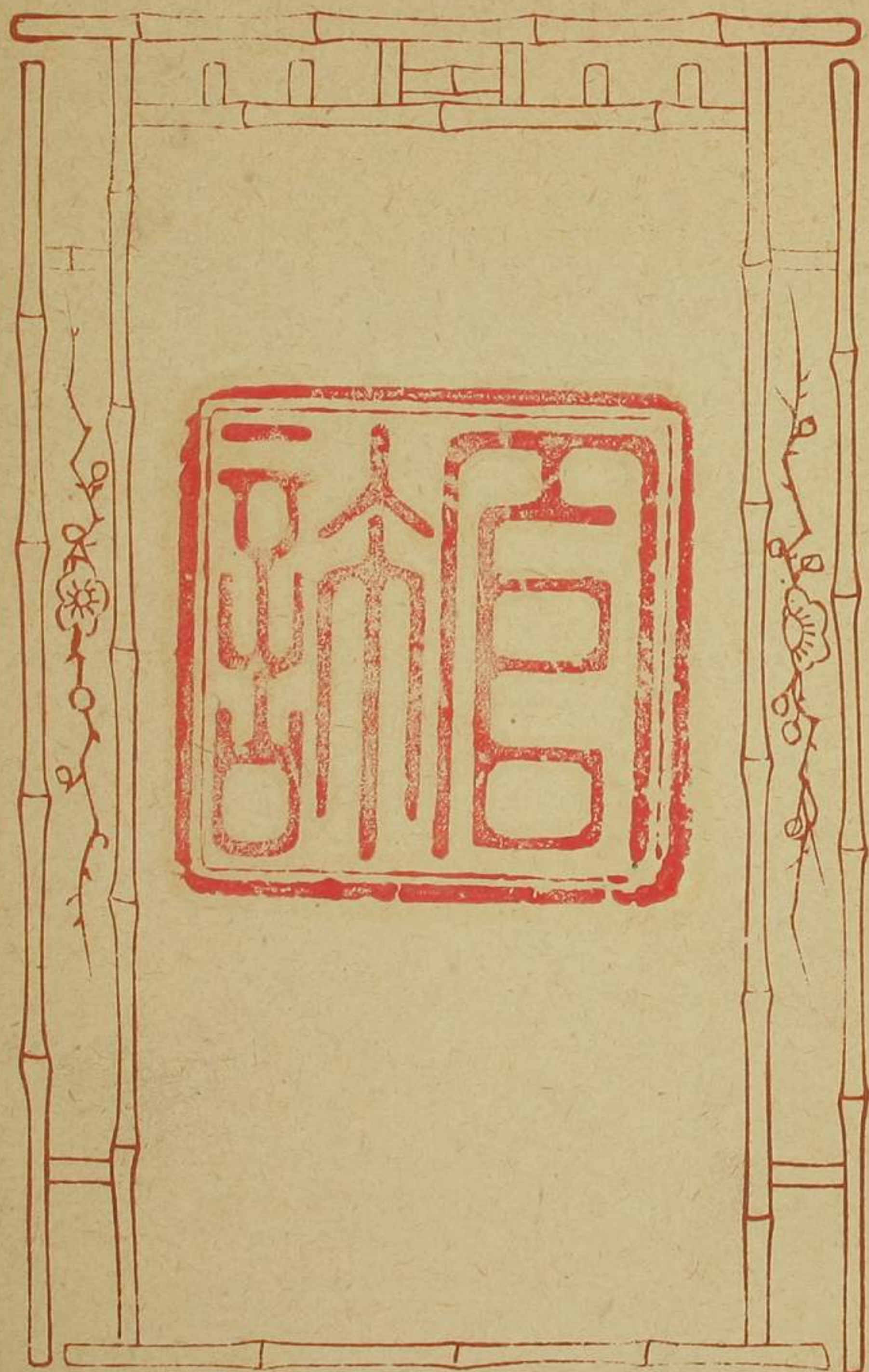
同輯

三編

擬律必携

明治八年七月





擬律必携

謝山成教
同輯
三編

明治八年七月

門 7 13
6549
6



大寶元年

天皇勅藤原史撰法律令有司遵行
之中崇以還生殺之權悉付之將家
朝廷又而為當而大宰之律止矣
今上天皇即位三年勅刑部改撰

疑律必集

卷

早稻田大學圖書館
藏 27.3.1 雙書

法律六年再勅司法案諸國成法
糾紛改定以頒于天下於是守法律
始公于天下有司之得私之也皆不
害守雖於法律有限而罪狀萬
態權衡之差酌量之誤有司亦
不能免焉此書抄粹錄以附條例

之後名曰擬律必推世之治法律者
能吟味之採用得宜則庶幾不肖
國家仁厚之深意乎

明治八年乙亥六月

吉備國滿生弘撰書



換後必換
若シ謀テ已ニ行フト雖モ未タ人ヲ傷セサル造
意者ハ後三年後ハ同ク行ハスト雖モ杖一百
其造意者ハ並ニ身行ハスト雖モ仍ホ首ト為シ
テ論ス後ニレテ行ハサル者ハ各行ヒテ加功セ
サル者ニ一等ヲ減ス
若シ因テ財ヲ得ル者ハ強盗ニ同シク首從ヲ分
タス罪ヲ論ス

磐前縣伺 罪案 六年 九月

磐城國田村郡根本村農士平長男根本寅吉
曰母ナカ先年近内源蔵ト姦通シ同人ト再

度逆逃セシヲ稍ク引戻シ候所其後源蔵
絶念セス自己ノ妻子ヲ放逐シ近内忠蔵
九月方ニ同居シ復モ機會ヲ窺ヒ母ヲ誘出
死セント艶書ヲ贈リ若シ脱走ノ儀ヲ母ヨリ
漏洩セハ打殺シ家居ヲ放火スト申居ル趣
ヲ右忠蔵ヨリ承リ驚駭ノ餘リ其事柄父十
平へ相話セシ所右ハ不均至極ニ付母并源
蔵共打果サント云フ就テハ母ナカ源蔵ノ
誘引ヲ拒メハ同人ニ殺サレ又同人ト逃走
セハ兩人トモ併テ父ニ殺サルヘク依テ思

念スルニ母ノ身上斯ク切迫ニ至ルモ其原
ハ源蔵ノ惡心ヨリ起リシ事ニテ且逃走ス
レハ同人モ父ノ手ニ死スル者ニ付寧口同
人ヲ毒殺シ母ノ一命ヲ助ケハ孝道ニモ相
成ヘクト意ヲ決シ其情實ヲ吐露シ忠蔵ニ
相話セシ所同人一應ハ差止メ候へ共元來
同人養家ノ妹イサヲ私ノ妻ニ致ス内約セ
シ後同人イサト密通レ懷妊墮胎セシヲ以
テ内約モ破談ニ及ントスル折節ニ付前條
周旋セハ妹ノ縁談モ熟和セント察セシ様

子ニテ遂ニ同意シ毒藥調達ノ上ハ同人宜
ク取計ト異候約定ニ付其事柄父へ相話シ
遂ニ同意致サセ其後同姓彦蔵ヲ招キ私并
父ヨリ前件切迫ノ情實相話シ是又終ニ司
意致サセ毒藥調方周旋ヲ頼ミ私彦蔵兩人
ニテ大内茂十方へ行キ腹心ヲ吐キ強テ藥
ノ調達相頼ミ同人承諾致シ候へ共其節毒
藥調達相成サルニ付茂十方ヨリ歸郷ケ私
彦蔵兩人ニテ鼠取藥製造スト偽リ砦石ヲ
求メ其砦石三令五釐ヲ忠蔵ニ相渡セシ所

庚午十月廿二日同人方へ源蔵来り腹痛ス
ル趣ニテ爐邊ニ臥セシ際忠蔵竊ニ源蔵方
ニ行キ其飯内へ礮石ヲ投入セシ呀後ニ源
蔵其飯ヲ食ヒ烈シク吐瀉シ骨節相痛ミ同
廿四日曉死去セシ由ニ候

指令

人命律 人ヲ謀殺スル者斬ノ處誅犯ノ毒
殺ヲ起意スルヤ其母曾テ姦夫アリ已ニ拒
絶スルノ後艶書ヲ贈リ共ニ逃亡セシテ
促シ若シ同意セサレハ殺害スヘキノ文ア

リ誅犯之ヲ憂ヒ父ニ謀ル父怒テ其事アレ
ハ姦夫ト母ト俱ニ殺戮ヲ加フルノ言アリ
是ニ於テ母ノ進退ニツナカラ生路無し由
テ親子ノ至情止ムヲ得ス毒殺ヲ謀ルニ
至ル尋常ノ謀殺ニ擬ス可ラス依テ事情ヲ
酌量シ本罪ニ二等ヲ減ス

懲役三年

根本 寅吉

犯罪三流一減改正ノ前ニ在ルヲ以テ
本議ノ如シ
同律 人ヲ謀殺スル後ニシテ加功セサル

者ヲ以テ論シ懲役十年ノ處詎犯毒藥ヲ以テ殺ニ係ルト雖モ毒情確實ナルニ依リ殺死毒夫條例鬪毆殺ニ二等ヲ減スルノ權衡ニ依リ三年

同 二年半 根本 十平

犯罪 以下

詎犯親屬交友ノ間事義忿ニ係ルヲ以テ根本十平ト同ク擬スヘカラス鬪毆餘久ヲ以テ論シ

同 九十日 根本 彦藏

存命ナレハ同九十日 大内 茂十

詎犯ノ毒ヲ施スヤ機ニ乘シテ殺害シ別ニ求為スル所アルヲ以テ本犯根本寅吉ニ比擬シテ減等ス可ラス

同律 人ヲ謀殺スル後ニシテ加功スル者ヲ以テ論シ

存命ナレハ絞罪 近内 忠藏

同義妹ニ毒スルノ罪ハ輕シ論セス

犯姦律 同母異父姊妹ヲ姦スル者ヲ以テ論シ

懲役一年

近内 イサ

同律 和姦夫アル者

同

根本 ナカ

大分縣 伺 罪案 六年 節録 十月

豊後國大野郡中土師村農平原梶五郎曰私儀同村農佐々倉五郎妻ヨシト庚午三月ヨリ姦通シ遂ニハ夫婦ト相成ント

ヨリ然ルニ深更ニ至リ忍ヒ行ク所往々五郎ヨシト同衾シ居リ姦會ヲ遂得ルト

田ニ及ヒ憤怒ニ堪ヘ難ク殺意ヲ起シ當三

月ヨシト密會ノ節本夫ヲ殺シ素志ヲ遂ケ

ント申セシ所同意セシニ付當六月私シ五郎ヲ狙撃セシニ同人傷シテ死セス

指令

姦夫姦婦本夫ヲ殺サント謀ル 人命律謀

殺條 謀殺傷シテ死セサル造意者

絞罪 平原梶五郎

人命律 謀殺祖父母父母 條例 夫ヲ殺サ

ント謀リ已ニ行フ者

絞罪

ヨシ

朽木裁判所同

罪案 六年十一月

武藏國葛飾郡遠野村農亡八右衛門四男大里新助曰私儀堀大里太次郎厄介タルヲ以テ同人平常私ヲ輕蔑シ雇人ノ如ク使役ス康千十一月中太次郎其妻ハマノ不在ヲ幸トシ其雇女ミツト姦通シ私其他ノ者モ憚ラス傍若無人ノ所業ニ付常ニ輕蔑スル耳ナラス不埒ノ旨申聞シ所却テ罵詈訛立向ヒシ故忿怒ノ餘り側ノ出及庖丁ニテ突キ殺シミツヘモ疵負ハセ經三十餘日ヲ衣類奪

取逃亡シ所々徘徊中下野國河内郡上郷村ノ尼妙心ト姦通シ夫婦ノ如ク當一月迄相暮セシ所同人俄ニ變心別居セシニ付必ス密夫アラシ其時宜ニ依リ殺害セント彼力寓居ヲ窺ニ窺フ所偶マ夜半同人裏口ヨリ徐歩シ来リテ故必然密夫ト約アルト察シ其行所ヲ問ハハ無言ニテ驅出セシニ付兼テ用意ノ錠ニテ無二無三ニ斬殺スル體テ指令 人ヲ謀殺スル者ニ擬シ

新罪

大里 新助

四等親ノ卑幼并ニ其雇人ヲ毆殺スル

罪輕キニヨリ一ノ重キニ從テ科ス

其ノ神奈川裁判所同罪案六年十月

相模國三浦郡林村農長野淺右衛門妹ユキ

曰私儀嘗テ雇置シ竹次郎ト姦通シ夫平蔵

ヨリ離別セラレ謝罪スト雖モ同人聽サス

且後妻ヲ取シニ付遺恨ニ存シ當五月夜半

平蔵宅へ忍入拔刀ニテ夫婦ニ瘋負ハセ平

蔵ハ其ノ為メ落命シ妻トヨハ廢者ニ相成

候

指令

人命律 人ヲ謀殺スル者

斬罪

トヨヲ傷スルハ鬪毆傷ヲ以テ論シ罪

輕ニ依テ除棄ス

若松縣同罪案七年九月

岩代國會津郡蒲生村農仙太郎長男五十嵐

仙蔵供私儀馬場重吉ト懇意ニ致シ屢同人

方へ出入罷在候處去々年二月中重吉他行

致之妻ムツ一人居候節罷越不圖春情ヲ發
シ相挑之候處承諾致シ姦通ニ及ヒル後數
度密會然ルニ重吉儀姦情ヲ推察致シ候ト
相見エ密會意ノ如ナラス依テムツヨリ逃
亡ノ儀相謀候ヘトモ先ツ暫ク時ヲ待ヘキ
旨申諭スト雖モ私ノ心中モ焦ルカ如ク苦
慮ノ折柄七月十九日風ト惡心ヲ生シ畢竟
重吉之レ在故ニ枕衾ヲ共ニスルヲ能ハス
寧口逃走スルヨリモ重吉ヲ殺害シ夫婦ト
ナリ快樂ヲ盡ント存シ同夜手頃ノ棒ヲ携

へ重吉宅へ忍入り同人寢寐シ候上ニ跨リ
絞リ殺サントセシ所目覺メ候ニ付聲立サ
セ間敷ト口へ手ヲ當テ誤テ二指ヲ喰マレ
進退谷リ不得已拳ヲ以テ咽喉ノ邊ヲ叩キ
候後猶面部ヲ足下ニ掛ケ其場立去ト雖モ
二指ノ疵ヨリ相顯レ御召捕ニ相成候
指令
謀殺條若シ謀テ已ニ行フト雖モ未タ人ヲ
傷セサル者二百六十兩俵ヲ賜フ
懲役三年ノ罪ハ肆ノ備五十嵐仙蔵

有夫姦ノ罪ハ輕シ論セス

改定律例第二百六十條和姦夫アル者

懲役一年

人命律

謀殺條例 改定律例

第百六十條 凡人ヲ殺サント謀リ未タ行ハス

ト雖モ謀狀顯跡アル者首ハ懲役百日後ハ懲

役五十日

第百六十一條 凡謀殺已行未行ノ罪犯並ニ罪

死ニ至ラサル者處斷シ訖レハ親屬隣佑ニ再

犯ノ念ナキトテ保證セシメ始テ放還スル
ヲ聽ス若シ保人ナケレハ獄則ニ照シテ懲治
監ニ入レ悔過ノ日ヲ待テ始テ放還スル
聽ス

第百六十二條 凡人ヲ殺サント謀リ己ニ行フ

テ其人知覺奔逃シ未タ傷ヲ受ケスト雖モ跌

跌及ヒ墮水等奔脱ニ因テ他所ニ死スル者造

意者ハ懲役十年後タル者ハ懲役三年若シ

悍ニ迫ラレテ當時失跌レテ死スル者造意者

兼ハ絞後タル者ハ懲役十年

第百六十三條 凡人ヲ謀殺セント欲シテ謀ヲ
舉ル時其謀ラルル人謀殺ヲ知覺シテ卻テ
 謀者ヲ殺ス者ハ故殺律ニ依リ已ニ行フ時ニ
 臨ミ卻テ殺ス者ハ罪人不拒捕而殺律ニ依リ
 殺スノ時ニ臨ミ卻テ殺ス者ハ捕吏格殺律ニ
 依リ論スルヲ勿レ
 第百六十四條 凡嬰兒ヲ殺ス者ハ各等親ニ照
 シ謀故殺本條ニ依テ科斷ス若シ穩婆囑託ヲ
 受テ殺ス者ハ囑託スル者ト同罪
 謀殺本屬長官新律細領

凡吏卒軍民本屬ノ勅任長官ヲ謀殺スルニ已ニ
 行フ者ハ流三等已ニ傷スル者ハ斬已ニ殺ス者
 ハ皆梟サシク
 若シ奏任長官ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者ハ流二
 等已ニ傷スル者ハ絞已ニ殺ス者ハ皆斬
 若シ判任長官ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者ハ流一
 等已ニ傷スル者ハ絞已ニ殺ス者ハ皆斬
 其長官及ヒ本屬ニ非ル者ハ已ニ殺スト雖モ凡
 人謀殺ニ依リ首從ヲ分テ罪ヲ科ス
 謀殺官吏律原謀殺本屬長官律

第百六十五條 凡勅任官ヲ謀殺スルニ已ニ行
 入フ者首ハ懲役十年後ハ懲役七年已ニ傷スル
 者首ハ斬後ニシテ加功スル者ハ懲役終身加
 功セサル者ハ懲役十年已ニ殺ス者ハ皆斬
 若シ秦任官ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者ハ懲役
 七年後ハ懲役五年已ニ傷スル者首ハ絞後ニ
 シテ加功スル者ハ懲役終身加功セサル者ハ
 懲役十年已ニ殺ス者ハ皆斬
 若シ判任官ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者首ハ懲
 役五年後ハ懲役三年已ニ傷スル者首ハ絞後

ニシテ加功スル者ハ懲役終身加功セサル者
 ハ懲役十年已ニ殺ス者ハ皆斬

謀殺官吏條例 改定律例

第百六十六條 凡判任官勅任官ヲ謀殺スルニ
 已ニ行フ者首ハ懲役七年後ハ懲役五年已ニ
 傷スル者首ハ絞後ニシテ加功スル者ハ懲役
 終身加功セサル者ハ懲役五年已ニ殺ス者ハ
 皆斬
 若シ秦任官ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者首ハ懲
 役五年後ハ懲役三年已ニ傷スル者首ハ絞後

ニシテ加功スル者ハ懲役終身加功セシル者
 ハ懲役五年已ニ殺ス者ハ皆斬
 第百六十七條 凡奏任官勅任官ヲ謀殺スル者
 ハ判任官奏任官ヲ謀殺スルト罪同シ其勅任
 官奏任官ヲ謀殺シ及ヒ奏任官判任官ヲ謀殺
 スル者ハ凡人謀殺ヲ以テ論ス
 謀殺祖父母父母新律綱領
 凡祖父母父母及ヒ伯叔父姑兄ハ外祖父若クハ外祖父
 母扶夫ノ祖父母父母ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者
 ハ皆斬已ニ殺ス者ハ皆梟三等親以下ノ尊長ヲ

謀殺スルニ已ニ行フ者首ハ流一等從ハ徒三年
 已ニ傷スル者首ハ絞從ハ加功スル者加功セサ
 ル者並ニ凡人ト同ク罪ヲ論ス已ニ殺ス者ハ皆
 斬
 若シ五等親以上ノ尊長卑幼ヲ謀殺スルニ已ニ
 行フ者ハ各鬪毆律内尊長故殺卑幼律ニ依リ二
 等ヲ減ス已ニ傷スル者ハ一等ヲ減ス已ニ殺ス
 者ハ故殺律ニ依ル

神奈川裁判所 罪案七年六月四日
 武蔵國都筑郡奈郎村農善兵衛倅野川安五

郎供 私儀當五月九日雇ハレ先ヨリ金十
 二錢五厘渡サレ買物ニ罷越ス途中酒食ニ
 遣ヒ捨テ雇主方へ立歸リ兼ネ醉中往事ヲ
 回顧スルニ嘗テ父ノ怒リニ觸レ斯ク他ノ
 雇人ニ差遣ハサレ妻ヲモ離別セラレシハ
 必竟此身ノ不良ヨリトハ申レ乍ラ其節親
 屬ノ詫入モ聞入レサルハ父ノ心得モ亦不
 宜ト毎々思意スル折殊ニ大醉ニ及ヒ遺憾
 ニ堪難ク忽然殺意ヲ發シ其夜九時過キ竊
 ニ裏口ヨリ父ノ寢所へ忍入手頃ノ棒ヲ持

テ咽喉并頭上ヲ烈シク毆打セシ所頗ニ苦
 痛ノ聲ヲ發スルニ付側ニ臥セシ妹ニ見咎
 メラレシト其僂立出臺所ノ襦袢一俵脊負
 ヒ逃亡仕候但シ父ノ右腕ニテ死亡セシ趣
 ハ今般捕獲ノ上初テ承知致シ候
 指令
 謀殺祖父父母父母條 父ヲ謀殺スル者
 梟示
 餘罪ハ輕シ論セス時父母父母父母
 謀殺祖父父母父母條例 改定律例

第百六十八條 凡祖父母父母及七伯叔父姑兄
姉若クハ外祖父母夫夫ノ祖父母父母ヲ謀殺
スルニ已ニ行フ者ハ皆斬ニ處スル律ヲ改メ
皆絞

廣島縣伺 罪案 六年十
節錄 一月十

安藝國廣島岩見屋町常吉弟伊藤定吉曰私
儀長兄佐七ト他人ノ裏屋ニ同居シ燈油代
ノ出錢ヲ佐七背シセサルヨリ互ニ爭論シ
飲酒ノ上仲兄常吉方へ罷越シ其曲直ノ判
斷ヲ頼ムニ同人少シモ不取合故惡口シテ

歸宅ス然ルニ其判断セサルヲ怨ミ尚ホ痛
歎シ常吉ヲ殺害セント出ダ庖丁ヲ買求メ
再ヒ同人宅へ行キ心ノ終ニ致シ吳ント高
聲ニ罵シ處常吉裏口ヨリ逃去シ故帰宅シ
翌日ニ至リ一旦本心ニ帰ルト雖モ又々暴
飲酩酊シ前同様殺害セント庖丁ヲ携ヘ常
吉方へ罷越ス處表戸堅ク鎖セシニ付空敷
立帰り翌朝ニ及ヒ初テ本心一帰り先非悔
悟職業ニ取掛シ處仲兄ノ出訴ニテ捕縛セ
ラル

指令

人命律謀殺祖父母父母條例 兄ヲ謀殺ス
ルニ已ニ行フ者

絞罪

伊藤 定吉

二等親ノ尊長卑幼ヲ告ルト雖モ干名
犯義ニ依テ免罪ノ限ニ非ス

罪ノ問フ可キ無シ

無罪

伊藤 佐七

大分縣同 罪案七年
節錄四月

豊後國大野郡倉波村農廣瀬國太郎妻千マ

供 私儀六年六月頃 瘧頭ニ腫物ヲ發シ
毒ナラン乎ト心痛罷在ル所夫國太郎私ノ
病性ヲ疎ミ候哉夫婦ノ情好モ稍薄クナリ
夜モ深更ニ及ハサレハ帰宅セサルニ付外
ニ密婦アラント疑ヒ妬心ヲ生シ夫ノ命ニ
後ハサルヨリ打擲セラレシ事モ有之旁怨
續ノ餘リ不圖惡意ヲ起シ夫ヲ殺害シ他人
ノ花下致ス間敷ク續テ已モ死ナント決心
シ本年三月初旬前段ノ如ク行ハント欲セ
シ所機會無之見合セ置キ同月十五日モ夫

ト争論ノ末柱ニ縛シ付ラレ又モ打擲ニ逢
 ヒ遺恨ニ堪難ク全ク密婦有之故如此殘忍
 ト一圖ニ存込妬心燃ル如ク同十七日夜隙
 フ窺ヒ脇差ヲ以テ夫ノ咽喉ヲ狙ヒ突立シ
 呀仕損セシニ付此上ハ自殺セント驅出ス
 フ引留メラレ終ニ取押ヘラレ候
 指令
 夫ヲ殺サント謀リ已ニ傷スル者改定律例
 第百六十八條 夫ヲ謀殺スルニ已ニ行フ
 者ハ皆斬ニ處スル律ヲ改メ皆絞ト云ニ照

絞罪
 謀殺家長 新律綱領
 凡奴婢家長ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者ハ流三等
 已ニ傷スル者ハ斬已ニ殺ス者ハ皆梟
 若シ雇人家長ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者ハ流一
 等已ニ傷フル者ハ絞已ニ殺ス者ハ皆斬
 本夫殺死姦夫 新律綱領
 凡妻妾人ト姦通スルニ本夫姦所ニ於テ親ラ姦
 夫姦婦ヲ獲テ即時ニ殺ス者ハ論スルヲ勿レ若

疑律公案
 二卷上
 十七

シ本夫止夕姦夫ヲ殺ス者ハ姦婦ハ和姦律ニ依
リ罪ヲ科ス止夕姦婦ヲ殺ス者ハ姦夫ハ流三等
本夫ハ並ニ論スルコ勿レ

其妻妾姦ニ因リ同謀シテ本夫ヲ殺ス者ハ梟姦
夫ハ斬若シ姦夫自ラ本夫ヲ殺ス者ハ姦婦情ヲ
知ラスト雖モ絞

福島縣同罪案七年五月

岩代國岩瀬郡下小屋村農亡常右衛門妻
シ供自余儀常右衛門ト夫婦ニ相成既ニ四
年二箇月ノ男子モ之アリ夫婦和合日ヲ送

ル中明治五年十月中同村農班目廣吉ト不
圖姦通致シ以來度々密會ノ未遂ニ偕老ノ
契ヲ結ント欲スレ氏有夫ノ身詮方ナク且
世間ノ風聞モアリ樂シキ中ニ心ヲ痛メ日
ヲ送ル折節當七年三月途中ニテ廣吉ニ行
キ逢ヒ互ニ心痛談話ノ後夫常右衛門ヲ殺
害シ未永ク夫婦トラント廣吉申聞ラレ其
日ハ立別レ翌夜隣家ニテ出會セシ處今夜
可行ト申スニ付竊ニ立帰り夫ノ熟睡ヲ窺
ヒ繩ハ私持參リ廣吉ハ其繩ヲ枕下ニ通シ

引括^フリシ節私ハ夜具ハ馬乘^ノリニナリ押^ヘ居ル中絶命ニ及ヒ候ニ付引出^シ自ラ縊^レシ体ニ仕成^シ御訴申上御檢使受^ケ共々安心致^シ居候處今般御召捕ニ相成候
 指令
 殺死^ス姦夫條妻姦ニ因リ同謀^シテ本夫ヲ殺ス者
 同條姦ニ因リ同謀^シテ本夫ヲ殺ス姦夫斬罪

殺死姦夫條例 改定律例

第百六十九條 凡姦夫自ラ本夫ヲ殺ス者ハ姦婦情ヲ知ラスト雖モ絞改テ懲役終身
 第百七十條 凡姦婦自ラ本夫ヲ殺ス者姦夫果シテ情ヲ知ラサレハ止夕姦罪ヲ科ス
 第百七十一條 凡姦婦過^テ悔^ヒ拒絶^スル後姦夫姦好ノ續キ難キヲ憤^リ本夫及ヒ祖父母父母ヲ殺死スル者拒絶ノ證據明白ナレハ婦女ハ止夕姦罪ヲ科ス
 第百七十二條 凡姦夫姦婦姦所ニ於^テ本夫ニ

撞見セラレ直ニ脱スルニ本夫即時逐テ門外ニ至リ殺ス者ハ姦所ト同シ若シ姦所及ヒ即時ニ非スレテ姦夫ヲ殺傷スル者審糾スルニ姦情確實ナレハ鬪殺傷ニ二等ヲ減ス止夕姦婦ヲ殺傷スル者折傷以上ハ鬪殺傷ニ五等ヲ減ス姦夫ハ和姦本條ニ依ル若シ姦情曖昧確據ナクシテ男婦ヲ殺傷スル者ハ各謀故鬪殺傷本條ニ依ル

新治裁判所

六年十二月廿五日

下總國海上郡倉橋村農治丸衛門養子

石毛 周助

右罪案之通姦夫姦婦ヲ即時ニ非スレテ殺ス者一人重キ者ヲ以テ論シ人命律殺死姦婦條例第百七十二條姦所及ヒ即時ニ非スレテ姦夫ヲ殺傷スル者審糾スルニ姦情確實ナレハ鬪殺傷ニ二等ヲ減ストアルニ依リ鬪殺絞罪ヨリニ等ヲ減シ懲役七年可申付哉
指令
本夫曾テ姦所ニ在テ自ラ姦夫姦婦ヲ獲テ審責スルニ悔悟罪ヲ謝スルヲ以テ懲減シ

宥恕スルノ後猶之ヲ改メス一時復タ甲間
ニ姦通スルヲ見テ捕ヘントスレトモ走テ獲
ス翌日姦夫傲然父ト来リ浴ヒントス本夫
其忌憚ナキヲ憤リ姦婦ヲ牽ヒ父子ノ面前
ニ再姦ノ罪ヲ問フニ姦夫曰我カ姦實ナリ
汝カ意ノマヽニセヨト直チニ浴所ニ赴ク
ニヨリ本夫其罪ヲ慚悔セサルノミナラス
抗言無禮兇ヲ逞フニ辱メヲ加フト一時義
忿ニ堪ヘス姦夫姦婦ヲ連殺スルニ至ル勢
ヒ然ラサルヲ得サルノ情状ヲ酌量シ人

命律殺死姦夫條例 凡姦夫姦婦姦所ニ於
テ本夫ニ撞見セラレ直ニ脱逃スルニ本夫
即時逐テ門外ニ至リ殺ス者ハ姦所ト同シ
トアルヲ以テ論シ
無罪 石毛 周助

殺一家三人新律綱領

凡謀殺故殺放火行盜シテ一家ノ死罪ニ非サル
三人以上ヲ殺シ若クハ人ヲ文解スル者ハ皆梟
長崎縣同罪案六年十月
肥後國芦北郡ハタト村農善四右衛門二男

善太郎曰私儀當七月ヨリ御縣下戸町村日
出丸船頭堀傳兵衛ニ雇ハレ同入倅卯吉并
水夫勝三郎米吉一同衆組肥前六角へ向テ
出帆シ九月五日島原沖碇泊ノ節一同ノ熟
眠ヲ圖リ庖丁ヲ取出シ第一ニ米吉ヲ突殺
シ次ニ船頭傳兵衛へ切付數箇所ニ疵負ハ
セシ所同人海中ニ轉墜ス其次ニ勝三郎ヲ
斬殺セシ頃卯吉寐リテ覺シ恐怖セシ乎直
ニ海中ニ飛入レ故金二圓餘ト衣類等奪取
本船ヲ沈メ解テ浮ヘ翌朝島原湊へ上陸ス

指令

水夫ニ雇ハレ港中碇泊ノ際偶々盗心ヲ發
シ船主外二人ヲ斬殺シ及ヒ一人ヲ溺死セ
シタルヲ以テ人命律殺テ家三人ヲ條謀
殺云々一家死罪ニ非サル三人以上ヲ殺ス
者ニ比擬シ
上河泉示
福島縣伺罪業六年十二月十四日
岩代國伊達郡南半田村農初五郎倅作山勝
四郎曰私儀當九月若招縣下河沼郡原村農

鴻巢傳吉ニ出會シ互ニ貪話ニ及ヒ終ニ同
人發意ニテ其前私奉公セシ信夫郡大笹生
村東禪寺ノ押入り楯棒ヲ以テ住職孝準ヲ
兩人ニテ擊殺セシ所同寺寄留高橋某ノ女
キチ村山某ノ女キニ等私ヲ見テ且呼テ助
ケヨト云ニ付後日ノ露頭ヲ恐レキナハ傳
吉キニハ私毆殺ス但シ私ハ四圓餘ノ物品
ヲ竊取り傳吉ハ其後逃セシヲ以テ其盜
賊ノ多少ヲ知ラス

指令

人命律 殺一家三人條 行盜シテ一家ノ
死罪ニ非サル三人以上ヲ殺ス者ヲ以テ論
レ

臬示

作山勝四郎

殺一家三人條例 改定律例

第一百七十三條 凡一家ノ死罪ニ非サル三人以
上ヲ殺スト稱スルハ雇人ト雖モ同居ニ係ル
者及ヒ同居セスト雖モ父子兄弟等至親ニ係
ル者皆是ナリ
魔魅人、新律綱領

凡 讒魅ヲ行ヒ符書ヲ造リ呪詛シテ人ヲ殺サン
ト欲スル者ハ各謀殺ヲ以テ論ス止々人ヲ疾苦
セシメント欲スル者ハ謀殺已行未傷ニ二等ヲ
減ス

毒藥殺人 新律綱領

凡 毒藥ヲ用ヒテ人ヲ殺シ及ヒ藥シテ死セサル
者ハ各謀殺律ニ依テ論ス買テ未夕用ヒサル者
ハ後二年半情ヲ知テ毒藥ヲ賣ル者ハ同罪々流
三等ニ止ル知ラサル者ハ坐セス

毒藥殺人條例 改定律例

第一百七十四條 凡人ヲ殺スノ心ナシト雖モ毒
藥ヲ用ヒテ破下破サラニ疾苦疾苦セシムル者ハ懲役
八十日

闘毆及故殺 新律綱領

凡 闘毆シテ人ヲ殺ス者ハ手足他物金金及フ問ハ
ス並ニ絞故殺スル者ハ斬
若シ同ク謀リ共二人ヲ毆キ因テ死ニ致スニ手
ヲ下シ致命傷ヲ為ス者ハ絞源謀者ハ共ニ毆ト
否ヲ問ハス流三等餘人ハ手ヲ下スト雖モ致命
傷ヲ為サハル者ハ杖九十

新編 新編 新編

越後國蒲原郡新潟東堀前通十番町亡納屋
 信次郎妻以志曰壬申四月廿六日夫病死イ
 タセシ以来身持宜シカラス同十月ヨリ同
 所横五番町豊島吉五郎ト姦通ス然ルニ同
 人兼テ他ノ雇女ト密通シ當五月女子出生
 セシ趣ニテ右女子ヲ私ヘ倚托ス因テ熟考
 スルニ吉五郎ハ養子ノ身ニテ此事發露セ
 ハ不容易且私モ迷惑セシト存シ付忽然ト
 殺意ヲ起シ兼テ聞傳ヘシ白砂糖ヲ飯ニ加



一三椀程強テ飲マセ其後臥サセシ所絶命
 ス吉五郎ハ鶴乱ノ体ニ詐言ス
 人命律闘毆及故殺條人ヲ故殺スル者
 ナ斬罪
 己ノ子ヲ殺死セラルト推考スト雖モ頭跡
 ナキヲ以テ詰問セシテ經過スル者罪ノ
 論スヘキナシ
 外無罪
 豊島吉五郎
 改定律例

第百七十五條 凡聞毆人ヲ殺ス者ハ絞改テ懲

役終身

備 足利裁判所 罪案 七年二月 節錄 廿三日

伊豆國那賀郡仁科中村農鈴木清次郎妻ト
ク供自今夫清次郎儀昨六年商用ニテ他行
セシ砌半所不知トクト申女ト懇意相成候
處引續キ夫清次郎へ戀ヒ慕ヒ當五月近村
迄参リ候風聞モ有之折柄清次郎モ他行セ
シ故彼是氣掛ニ付探リ得テ連レ歸ルヘク
ト奔走中右トクへ出會ヒ候ニ付清次郎ハ



自今夫儀故執心ハ不相成段申聞ルト雖
モ一圓不聞入ヲ以テ遺恨ニ堪ヘ兼ネトク
ヲ打擲候處窮所ニ中リ候哉遂ニ打斃レ候
ニ相驚キ立去候

指合

我カ夫ト密通スル女ニ面會シ夫ニ執心ノ
念ヲ絶ンコトヲ説諭スレ固ク肯セサル
ヨリ忿怒ニ堪ヘス毆打シテ邂逅ニ死ニ致
ス其情ヲ閱諒スヘキアルヲ以テ鬪毆殺ニ
一等ヲ減シ

懲役十年

第百七十六條 凡亂毆シテ人ヲ殺シ傷ノ先後
 輕重ヲ知ラサル者原謀アレハ原謀者ヲ懲役
 終身ニ處ス若シ原謀共ニ毆サレハ初聞者ヲ
 懲役終身ニ處シ原謀者ハ懲役十年餘人ハ並
 ニ懲役九十日

第百七十七條 凡亂毆シテ人ヲ殺シ先後輕重
 ヲ知ラサル者若クハ原謀同夥共ニ毆テ各致
 命重傷ヲ為ス者一人實ニ罪ヲ畏レテ自首
 及ヒ已ニ獄ニ在リ或ハ押解中途ニ在リテ病

斃スル者アレハ一等ヲ減シ懲役十年ニ處ス

第百七十八條 凡同謀共二人ヲ毆テ傷皆致命
 ニシテ即時身死スレハ後ニ手ヲ下シ傷ヲ成
 スト重キ者ヲ懲役終身ニ處ス若シ時日ヲ經
 テ身死スルニ至ル者ハ何傷死ニ致ストヲ究
 明シテ傷ヲ成スト重キ者ヲ懲役終身ニ處ス
 若シ原謀共ニ毆テ亦致命重傷ヲ為スニ係ラ
 ハ原謀者ヲ懲役終身ニ處ス
 第百七十九條 凡人ト爭論鬪毆シテ臨時殺意
 ヲ起シ人ヲ殺ス者ハ故殺ニ坐ス若シ爭鬪ノ

後仍ホ餘怒ヲ尋キ追テ兇殺シ及ヒ争鬪
ニ因ルニ非スト雖モ臨時殺意ヲ起シテ殺ス
者預謀ノ跡ナキハ並ニ故殺ヲ以テ論ス其
傷シテ死セサル者ハ仍ホ鬪毆傷ニ依ル

屏去服食 新律綱領

凡人ノ服用飲食ノ物ヲ屏去シ若クハ物ヲ以テ
人ノ耳鼻及ヒ孔竅中ニ置キ傷損スル所アル者
ハ各鬪毆傷ニ一等ヲ加ヘ罪流三等ニ止ル因テ
死ニ至ル者ハ絞
若シ故サラニ蛇蝎毒蟲ヲ用ヒ人ヲ咬傷セシム

ル者ハ鬪毆傷ニ一等ヲ加ヘ罪流三等ニ止ル因
テ死ニ致ス者ハ斬

屏去服食條例 改定律例

第百八十條 凡人ノ服用飲食ノ物ヲ屏去シ若
クハ物ヲ以テ人ノ耳鼻及ヒ孔竅中ニ置キ因
テ死ニ至ル者ハ絞改テ懲役終身若シ謀故ノ
人情アル者ハ各本律ニ依ル

人命律下 戲殺傷人 新律綱領

凡戲ニ因テ人ヲ殺傷スル者ハ鬪殺傷ニ二等ヲ

減ス若シ高ニ乘リ危ヲ履ミ因テ相戯レ殺傷ス
 ル者ハ一等ヲ減ス
 人ノ誤殺傍人新律綱領
 凡鬪毆シテ誤テ傍人ヲ殺傷スル者ハ鬪殺傷ニ
 準シテ論ス罪流三等ニ止ル
 其謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ傍人ヲ殺ス者ハ故殺ヲ
 以テ論シ傷スル者ハ仍ホ鬪毆ヲ以テ論ス
 詐称殺ス人新律綱領
 凡津河水深ク泥濘ナルヲ平淺ト詐称シ及ヒ橋
 梁渡船ヲ漏ナルヲ牢固ト詐称シ人ヲ過渡セシ

ノ因テ相闘死傷ニ致ス者ハ鬪毆傷ヲ以テ論ス
 過失殺傷人新律綱領
 凡過失ニテ人ヲ殺傷スル者ハ各鬪殺傷ニ準シ
 法ニ依リ收贖シテ其家ニ給付ス
 豊岡縣同罪案七年
 丹後國舞鶴新町藥商田中孫三郎雇人安久
 幹藏供私儀家長苗守中本年六月十九日
 竹屋町古橋作兵衛雇人市藏端紙ニシツピ
 一ル代金壹朱ト認メシヲ持叅注文ニ来リ
 シ節右「シツピ」ル藥名ヲ存ヒサルヨリソ

ツピールノ誤リナラント臆度ヲ以テ量目
壹文目三分ヲ紙袋ニ入レ附與ス尤モ兼々
戸主ヨリ大切ノ藥種ト承リ置レニ付尚又
囊ニ入レ極上水干舶來ツピールト書記
シ相渡セシ所醫師植木春汀ヨリ呼ヒ寄セ
ラレ前件賣渡セシ始末尋ラレ且ツピール
ルトハ俗ニ云沸騰散ニテツピールハ昇
永劑ニテ多量用ユル時ハ人命ニ關スル
藥ニテ既ニ廣野泰三郎ナル者之ヲ沸騰散
ト心得服用致シ忽チ大患ニ至リレ由申聞

ラレ愕然當惑仕リ只管医員へ治療ノ儀依
頼レ且主家及ヒ親戚共へ報知ノ上泰三郎
看護ノ者差遣シ藥用ハ勿論盡力介抱ニ及
ビ候ヘ共竟ニ其効ナク病死致レ候ニ
藥ヲ買フ注文ノ藥名ヲ知ラサルヨリ臆度
平ヲ以テ其名ニ近似ノ藥ヲ賣リ因テ死ニ致
ス者一人命律過失ニテ人ヲ殺傷スル者ハ
各聞殺傷ニ準レ法ニ依リ收贖シテ其家ニ
給付ス

收贖金四拾圓 安久 幹藏

過失殺傷人條例 改定律例

第百八十一條 凡過失殺傷人收贖金官吏華士族

平民ヲ今タス 一體ニ本圖ニ照シテ其家

ニ給ス 凡一人二人ヲ過失殺スル者ハ

第百八十二條 凡一人二人ヲ過失殺スル者ハ

例ニ照シ金八十圓ヲ收贖シテ均シク二人ニ

分給シ二人一人ヲ過失殺スル者ハ金四十圓

又二人ニ給シテ一人ニ給付ス一人二人ヲ

傷シ二人一人ヲ傷スル者モ亦此例ニ依ル

毆死有罪妻妾 新律綱領

凡妻妾夫ノ祖父母父母ヲ毆罵スルニ因テ夫官

ニ告ケテ擅ニ殺ス者ハ杖九十祖父母父母ノ親

ヲ告ルヲ待テ乃坐ス 若シ夫罪アル妻妾ヲ毆罵シ妻妾因テ自死スル

者ハ論スルヲ勿レ 毆死有罪妻妾條例 改定律例

第百八十三條 凡妻妾夫ノ祖父母父母ヲ毆罵

スルニ因テ夫官ニ告ケテ擅ニ殺ス者ハ杖九

十改テ懲役一年其傷スルニ因テ擅ニ殺ス者

ハ懲役九十日
殺奴婢新律綱領
凡奴婢死罪ヲ犯スニ家長官ニ告ケス擅ニ殺ス
者ハ杖七十
若シ罪ナキニ毆殺スル者ハ後三年故殺スル者
ハ流二等
若シ家長雇人ヲ毆ツハ折傷ニ非ルハ論スル
勿レ折傷以上ハ凡人ニ三等ヲ減ス因テ死ニ至
ル者ハ流一等故殺スル者ハ絞

長野縣伺 壬申十一月廿六日

信州佐久郡沓掛宿 土屋 佐平
農繼立所人足差配

右ノ者儀東京鎮臺ヨリ第二分營ヘノ御用
狀紛失候ヲ詮議可致ト繼立所小遣土屋甚
平發意ニテ右持夫人足同宿寄留人上州甘
樂郡恩賀村出生傳吉事玄五并小田井宿源
吾ヲ苧繩ニテ縛シ甚平俱々竹ヲ以テ打擲
訊問ニ及ヒ玄五儀右御用狀ハ楮幣入ト見
受候ヨリ竊ニ破封致シ候處書帖ノミニ付
最寄藪際ヘ取弃或ハ水中ヘ投シ候由申立
其邊所々搜索トシテ立越候ヘ共不相知夜

ヲ徹シ立歸候折柄玄五儀聊トホカキヨウ恐懼ノ色ナク
 焚火ノ傍ニ罷在候ヨリ心ココロ恐ク存且右体ミミ腫
 味ノ申立故今イナ下應可相糾ト下已ノ思慮ヲ
 以テ再ヒ同人ヲ縛シ梁木ヘ釣上ケ激怒ノ
 餘リ息杖竹ニテ尚又打擲イタシ終ニ為及
 死候始末不届至極ニ付絞首可申付哉
 指令
 人命律殺奴婢條下家長雇人ヲ毆テ死ニ至
 ルヲ以テ論シ
 懲役五年
 尼武平

犯罪改定律前ニ在ルヲ以テ仍ホ舊律
 依ル
 埼玉裁判所伺六年七月
 改定律例第百九十五條凡キチカヒ瘋癲人云々限滿
 テ改還ス同百九十二條凡瘋癲人云々醫藥
 ノ資ト為ストアリ依テハ瘋癲人々ヲ殺死
 ニ不至傷スル片ハ傷ニ依リ常律ヲ以論シ
 其刑ヲ鎖銅ニ換仍ホ醫藥ノ資ヲ追シ滿限
 ノ節痊癒スルハ放還シ痊癒セサルハ仍ホ
 愈寄迄其終鎖銅セシム可キ哉且別冊器之專

之助ノ如キ人ヲ及傷レテ決斷ノ前痊愈ス
ルハ前百九十五條ノ權衡ヲ以テ減等レ常
律懲役二年ニ三等ヲ減レ仍ホ人命律殺奴
婢條家長雇人ヲ毆折傷以上ニ至ルヲ以亦
三等ヲ減レ通シテ六等ヲ減レ懲役七十日
ニ處シ醫藥ノ資ハ過失收贖法ノ如ク十五
圓ヲ追シ傷者ニ給シ可然哉
指令
一時瘋癲ヲ發シ柴芥ヲ以テ雇人ヲ傷レ折
傷以上ニ至ラサル者人命律殺奴婢條

其有家長雇人ヲ毆ツハ折傷ニ非ルハ論スル
勿レト云ニ依リハ十
無罪
島根專之助
犯罪改定律頒降前ニアルヲ以テ斷罪
依新頒律條例ニ依テ定擬ス
改正殺雇人律 原殺奴婢律
第百八十四條 凡雇人死罪ヲ犯スニ家長官ニ
告ケス擅ニ殺ス者ハ懲役八十日
第百八十五條 凡家長雇人ヲ毆テ死ニ至ル者
ハ流下等改テ懲役十年

將屍圖賴 新律細領

凡祖父母父母子孫ヲ故殺シ及ヒ家長奴婢ノ故
 殺シテ人ニ圖賴スル者ハ各本罪ニ丁等ヲ加フ
 若シ子孫及ヒ奴婢已ニ死スル祖父母父母及ヒ
 家長ノ屍ヲ將テ人ニ圖賴スル者ハ徒三年ニ等
 親ノ尊長ノ屍ヲ將テスル者ハ徒二年ニ等親以
 下ノ尊長ハ各丁等ヲ遞減ス
 若シ尊長已ニ死スル卑幼及ヒ他人ノ屍ヲ將テ
 人ニ圖賴スル者ハ杖八十
 其官ニ告ル者ハ誣告律ニ依テ罪ヲ論ス因テ財

物ヲ詐リ取ル者ハ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シ重キニ
 從テ之ヲ科ス
 將屍圖賴條例 改定律例

第百八十六條 凡雇人己ニ死スル家長ノ屍ヲ
 將テ人ニ圖賴スル者ハ懲役百日
 凡弓銃殺傷人新律細領
 凡故ナク弓箭銃砲ヲ放チ及ヒ劍刃ヲ挺ク者ハ
 人ヲ傷セスト雖モ杖六十傷スル者ハ凡鬪傷ヲ
 以テ論ス因テ死ニ致ス者ハ絞士族卒ハ破廉耻
 甚者ヲ以テ論ス

改正弓銃殺傷人律 改定律例

第百八十七條 凡故ナク弓箭銃砲ヲ放チ及ヒ
 劍及フ挺ク者ハ人ヲ傷セスト雖モ杖六十改
 テ懲役三十日傷スル者ハ凡鬪毆傷ヲ以テ論
 ス因テ死ニ致ス者ハ絞改テ懲役終身
 第百八十八條 凡曠野無人ノ地ニ於テ故ナク
 弓銃ヲ放チ因テ人ヲ殺傷スル者ハ過失殺傷
 ヲ以テ論ス
 第百八十九條 凡弓銃ヲ放チ及ヒ劍及フ挺ク
 者華士族ハ破廉耻甚ヲ以テ論スル律ヲ改メ

一丁體 閉刑ニ處ス

車馬殺傷人 新律綱領

凡故ナク街市ニ車馬ヲ馳驟シ因テ人ヲ傷スル
 者ハ凡鬪傷ニ下等ヲ減ス死ニ致ス者ハ流ニ三等
 若シ馬驚逸シ或ハ公務ノ急速ニ因リ馳驟シテ
 人ヲ殺傷スル者ハ過失ヲ以テ論シ法ニ依リ収
 贖シテ其家ニ給付ス

筑摩縣伺 六年八月 廿三日

信濃國筑摩郡官 小澤由太郎
 村所坊工庄七俸
 小縣郡狐塚 芹澤文平
 村角太郎弟

右、別紙罪案之ノ通ニ付處斷相伺候也

指令

二人共ニ暗夜故ナク街市ニ馬ヲ馳セ過テ
人ヲ踏仆レテ死ニ致シ傷ノ輕重ヲ知ラサ
ルヲ以テ先驅ノ者ヲ首トナシテ論シ不
命律車馬殺傷人ノ條故ナク街市ニ車馬ヲ
馳驟シ因テ人ヲ死ニ致ス者ニ擬シ

懲役十年

小澤由太郎

鬪毆及故殺條例

乱毆シテ人ヲ殺シ傷ノ

先後輕重ヲ知ラサル者ハ初鬪者ヲ重罪ニ

坐レ餘人ハ云々トアルヲ以テ論シ

懲役九十日

芹澤 文平

車馬殺傷人條例 改定律例

第百九十條 凡深山曠野猛獸ノ往来スル處ニ

於テ柵扉ヲ穿テ及ヒ窩弓ヲ安置シテ

及ヒ林眉索ヲ立サル者ハ懲役四十日以テ人

ヲ傷スル者ハ鬪毆傷ニ甲等ヲ減ス減シテ本

罪ヨリ輕キ者ハ本罪ニ依テ論シ死ニ致ス者

ハ懲役三年仍小埋藥金二十五圓ヲ追シテ死

者ノ家ニ給付ス若シ深山曠野ニ非スシテ人

ヲ殺傷スル者ハ車馬殺傷人律ニ依ル

山梨裁判所伺 七年一月廿三日

甲斐國巨摩郡上條南割村農 湯船小兵衛

右罪案之ノ通車馬殺傷人條例ニ依リ懲役

三年ニ處斷致シ仍ホ埋葬金二十五圓ヲ追

付シテ死者ノ家ニ給付致シ外ニ銃砲取締規

則ニ違ヒ竊ニ銃砲所持スルノ過料金五十

錢及ヒ鳥獸獵規則ヲ犯シ竊ニ獵業スルノ

罰金六圓六別段可申付哉

指令

改定律例第百九十條 凡深山曠野猛獸ノ

往來スル處ニ於テ窩弓ヲ安置シ望竿及ヒ

抹眉索ヲ立テス以テ人ヲ死ニ致ス者ハ

懲役三年 湯船小兵衛

仍ホ埋葬金二十五圓ヲ追シテ死者ノ

家ニ給付スヘシ

銃砲規則ニ違ヒ竊ニ銃砲ヲ所持スルノ過

料 金五十錢

鳥獸獵罰則ヲ犯シ竊ニ獵業スルノ罰金情

状ヲ酌量シ

金五圓

第百九十一條 凡窩弓人ヲ殺ス者例ニ依リ罪
 ヲ科スト雖モ貧困ニシテ埋葬金ヲ追スル
 能ハサレハ其雇手錢ノ全數ヲ領置シ食費ヲ
 除キ餘ル所ノ雇錢金二十五圓ニ滿レハ死者
 ノ家ニ給シ仍ホ役限ハ本法ヲ尽ス
 庸醫殺傷人

凡庸醫藥ヲ用ヒ誤テ本方ニ依ラス因テ死ニ
 致ス者ハ過失殺ヲ以テ論シ法ニ依リ收贖シテ

其家ニ給付シ醫ヲ行フヲ許サス
 若シ彼サラニ本方ニ違ヒ疾病ヲ詐療シテ財物
 ヲ取ル者ハ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論ス因テ死
 ニ致シ及ヒ事ニ因テ故サラニ藥ヲ用ヒ人ヲ殺
 ス者ハ斬

山口縣伺 罪案六年十一月十三日

周防國都濃郡須萬村農藤井金藏供自分儀
 幼年ノ頃癩癩甲苦セシ節近方ニテ山伏雷
 鏡儀不動明王へ祈願ヲ籠メ平愈スト申ニ
 依テ下念ニ祈願シ成長ノ後平愈セシ以來

人ノ頼ヲ受ケ別段傳授セシモアラサレ
氏祈禱致シ簿書洗米等ヲ遣ハス内平愈セ
シ者ヨリハ微謝ヲ請ケ糊口ノ下助ト致シ
来ル處當七月中同郡下谷村農三好金右衛
門ヨリ其妻庶血忘ノ處療養驗ナキニ付祈
禱ニ預リ度ト頼ヲ受ケ立越シ不動明王ノ
画幅ヲ掲ケ洗米符書等ヲ與ヘ夜ニ入テハ
火加持ト唱ヘ藁炬火ヲ燃シ宅内ヲ振廻シ
居ル内庶血モ相変シ狂ヒ騷キ終ニ駈出
スヲ金右衛門連レ歸シ庶益々狂態ニ付尚

又湯加持ト唱ヘ熱湯ヲ沸シ笹ノ葉ニテ庶
ノ頭上ニ振懸ケ或ハ硫黄ヲ燻ヘ威シ杯ス
レ氏更ニ居合サルニ付大釜ニ湯ヲ沸カサ
セ庶ヲ裸ニシ兩脚ヲ縛シ釜中へ自分抱入
ル、屢泣叫フ故抱キ上ケ解放候ヘハ忽チ
驅出シ戶外ヘ打倒シ苦痛ノ体ニテ腰廻リ
糜爛イタシ候依テ水藥ヲ與ヘ寐サセ置キ
自今ハ翌廿五日立去候日死去ス其後金十
九錢五厘ノ謝礼ヲ貰ヒ受ケ候
指令

謀^カ犯^シシカノ狂態ヲ發スルヲ見テ鬼魅ニ疫^キ
セラル^ルモノトシ之ヲ驅^ク逐^クノ為メ加持祈
禱スルニ湯火ヲ其頭上ニ張^テ旋^ニ或ハ硫黄
ヲ薰^ク灼^シシ又熱湯ニ浴^セシムルニ由リ翌日
遂ニ死ニ至ルト雖モ其意專^ラ疫邪ヲ驅^リ
病^ヲ愈^ス救^ハントスル^ハ憐^ム愚^クノ真^ニ情^ニ出^テ所^レ
謂^ル庸醫ノ鍼^ニ穴^ヲ藥^ヲ劑^ヲ誤^リ死ニ致^ス者ト相
似タルヲ以^テ庸醫殺傷人^ノ條庸醫鍼藥ヲ
用^ヒ誤^テ本方ニ依^ラス因^テ死ニ致^スト云
ニ此^レ照^シシ過^ル失^シ殺^スヲ以^テ論^シ收^メ贖^シテ其家

三給ス
取贖金四十圓
藤井 金藏
妻ノ長病ヲ憂^ヒ祈禱ヲ依^リ頼^シ遂ニ死ニ至
ルモ罪ノ問^フ可^キナシ
無罪
威逼致死
凡^ソ戸^コ婚^コ甲^ト宅^ニ錢^ノ債^ノ等^ノ事^ニ因^テ人^ヲ威^シ逼^シテ自
死ニ致^ス者ハ杖^ノ一^百若^シ官^吏公^使人^等公^務ニ
因^ルニ非^スシテ平民ヲ威^シ逼^シテ自^ラ死^ニ致^ス
者モ罪^同並^ニ埋^メ葬^シ金^二十^五兩^ヲ追^ッ給^ス

若シ姦ヲ行ヒ盜ヲ為スニ因テ人ヲ威逼シテ自
死ニ致ス者ハ姦ノ成否ヲ論セス財ノ得否ヲ問
ハス並ニ斬

庶兒島縣伺 七年二月 十四日

譬ハ二人各強姦スルアリ一人ハ席上ニ
テ偶色情ヲ發シ服セサル婦女ヲ推シテ姦
ス又一人ハ故サラニ道路通行ノ婦女ヲ無
理ニ邊鄙ノ所へ抱へ去リ手足ヲ竹木ニク
リ付姦スルアリ女ハ身ヲ瀆サレタルヲ
耻チ其所ヲ去テ淵ニ投シ若クハ縊レテ死

スルアラハ死ハ犯者ノ關スルナシト雖モ
其原由ヲ問フ片ハ其責ヲ免レサルカ如シ
改正強盜律ニ盜ニ因テ姦スル者ハ成否ヲ
論セス絞トアリ二人各犯ノ如キハ強姦ニ
輕重ノ衡ヲ別タス一体ニ改正律例第二百
六十條ニ依リ論ス可キ乎
指令
十五 強姦已ニ成リ本婦羞忿自尽スル者奸夫ハ
威逼致死律姦ヲ行ヒ人ヲ威逼シテ自死ニ
致ス者ヲ以テ論ス可シ

瘋癲殺人

凡瘋癲人ヲ殺ス者ハ終身鎖錮仍ホ埋葬金ニ
 十五兩ヲ追取シ死者ノ家ニ給付ス若シ命以
 上ヲ連殺スル者ハ絞其親屬者守嚴ナラスシテ
 他人ヲ殺死スルニ致ス者ハ杖九十
 若シ瘋癲ヲ假リ人ヲ殺傷スル者ハ謀故殺傷ニ
 依テ之ヲ科ス

新治裁判所

六年十月廿九日

常陸國新治 穂坂 治助

右ハ別紙之妻ヨテ外五名供状ノ通ニ付人

命律瘋癲殺人舊條例其父ヲ傷スルハ止タ
 鎖錮セシムトアルニ依リ其子ヲ傷スル者
 天鎖錮終身可申付哉

指令

瘋癲人子ヲ傷スル罪ノ論スヘキナレト雖
 モ宜ク親族ヲシテ嚴ニ看守セシムヘシ
 但右所犯ノ如キハ戸長及ヒ親屬等別ニ罪
 案ヲ取ルヘカラス

十瘋癲殺人條例

第九十二條 凡瘋癲人ヲ殺シ埋葬金二十

五圓ヲ追^ツスル者改テ過^シ朱殺^シ收贖^シ例ニ照^シレ四
 十圓ヲ追^ツシテ死者ノ家ニ給^フ付ス其人ヲ傷ス
 ル者ハ並ニ過^シ朱傷^シ收贖^シ例ニ照^シレ追^ツシテ傷者
 ニ給^フレ醫藥^ノ資^ト為^ス
 第百九十三條 凡瘋癲人^ノ十命以上ヲ連^テ殺スル
 者ハ絞^テ改^テ鎖^シ錮^シ終^シ身^ト
 第百九十四條 凡瘋癲人^ノ祖^ノ父^ノ母^ノ父^ノ母^ノヲ殺ス者
 ハ鎖^シ錮^シ終^シ身^ト
 第百九十五條 凡瘋癲人^ノ人^ヲ殺ス者ハ鎖^シ錮^シ終^シ身^ト
 身ニ處^スト雖^モ若^シ果^シテ痊^ユ愈^スレハ親^ノ屬^ト

鄰^ノ佑^ノ保^シ證^ヲ取^リ懲^テ役^シ五年ニ改^テ正^シ限^ニ滿^テ
 放^シ還^ス
 置^キ賜^フ縣^ノ伺^ノ罪^ノ案^ノ七^年四^月
 節^ノ錄^ノ廿^九日

羽前國置賜郡李山村農長右衛門倅穴澤五
 郎次供^テ自^レ今^ノ儀^ニ水^年三^月他^ノ行^ニ醉^中ニテ
 深^ク更^ニオ^ヨヒ村^内南^松原^ヲ通^行ノ砌^ノ風^ナ
 キニ燈^火消^滅シ頻^リニ物^ヲ淋^シク相^成兼^テ
 聞^ク及^テ野^狐ノ野^言為^ト忽^チ心^ノ氣^取乱^レ道^ノ
 前後^モ不^レ相^分ニ付^テ暫^ク畑^道ニ休^息ノ折^リ
 後^トヨリ提^テ燈^ヲ携^ヒ來^ル者^{アリ}同^行セシ

聲懸ケラレ顔ヲ見レハ同村一類梅澤清
右衛門ノ様ナレ氏渠レ深更ニ通行ノ苦ナ
レ必^コ糺^リノ変化ト心付^レ内同人又同行セ
ント申^レ且ツ自今ノ両手ヲ引立^レ故愈々
孤ノ化身ト存^レ直^ニ一組付短刀ニテ切り
付突立打斃^シ穢安心^シテ立帰ル途中夜明
ニ至リ帽子短刀共取落セ^レ心付引返^シ
右場所迄参^リ所狐ト存^レ殺セ^レハ全ク
清右衛門ナレハ驚^キ入^リ父へ前段ノ始末相話
シ自害ト決心セ^レ所父ヨリ差止^ラレ翌日

抄卷八打

自首仕候
指令

詭^ト犯^シ深夜獨行^シ忽然燈火ハ消ルヲ見テ狐
狸ノ業ト疑^ヒ恐懼スルノ際又知ル人來^テ
同行ヲ勸ムルヲ見愈々狐狸ノ我ヲ誑惑ス
快^ト誤認^シ惟^ニ性ノ餘^リ之ヲ刺^シテ死ニ致ス
其^レ所^ヲ為^シ心氣錯^シ乱^シ朦^シ朧^シ前後ヲ辨セサルヲ以
テ改定律例第百九十五條瘋癲人人ヲ殺ス
者ハ鎖^ヲ錮^シ終身ニ處スト雖モ若^シ果^シテ
愈^スレハ云々トアルニ擬^シ

是公能

懲役五年

穴澤五郎次

仍ホ埋葬金四十圓ヲ追シテ死者ノ家ニ給付ス

第百九十六條

凡瘋癲人自殺ヲ致スニ看守人

失察スル者ハ懲役二十日若シ人ヲ傷スルニ

至ラレムル者ハ懲役四十日

第百九十七條

凡瘋癲人ヲ殺ス者孤獨貧困

ニシテ親屬ノ保管スル者ナケレハ鎖錮ヲ禁

獄ニ換ヘ埋葬金ヲ追セス

謀同死

凡姦夫姦婦同死ヲ商謀スルニ姦婦已ニ死シ姦

夫未夕死セス姦夫已ニ死シ姦婦未夕死セサル

者ハ並ニ流三等

若シ同ク謀リ藥ヲ用ヒテ墮胎スルニ姦婦身死

スル者姦夫ハ流三等

名東縣伺

罪案六年十月

阿波國名東郡下助任村平民齋藤孫藏妻ア

イ曰ク私儀今ヲ距ルハケ年前齋藤三郎平

ノ養女ト為ル以來養母ノ意ニ適セス持リ

養父ニ深ク寵愛セララル然ニ如何ナル過去

ノ惡縁ニヤ當六年一月頃養父ヨリ切迫セ
 ラレ遁ルニ路ナク不得已遂ニ命ニ從ヒ
 姦通ス尔後間ヲ窺ヒ折テ見テ屢同衾雙枕
 セシ所惡事千里ニテ忽チ獸行ノ説紛紜タ
 ルヲ以テ養父一策ヲ設ケ其醜説ヲ掩蔽セ
 スニ為メ急ニ當夫孫蔵ヲ養子ニ致セシ所
 底三郎平ノ意ニ稱ハス去リ逆月日モ立タ
 昔ハス離異セハ巷説モ弥増ス高カラント此ニ
 到テ進退谷マリ或日養父ノ發意ニテ生テ
 耻辱ヲ受ンヨリ死シテ蓮ノ葉ヲ俱ニセン

ト云ニ同心シ當十二月十五日午後一時ヨ
 リ舟ニ乗シ同夜十二時頃物揚場へ上陸シ
 兩人互ニ手ヲ取り交ヒ死シテモ必ス離レ
 スト契ヒ終テ等シク水中ニ投没セシ所他
 人ノ為メニ引揚ラレ養父ハ五十七年ノ老
 人ニ付其夜没故シ私ハ廿二年ノ壯年故歎
 蕪生致シ候
 指令
 夫ノ養父ト姦シ同死ヲ謀テ其養父已ニ死
 スル者人命律謀同死條ニ姦夫已ニ死シ姦

婦未夕死セサル者ハ並ニ流三等ト云ニ擬

懲役十年

養子配偶ノ前ニ姦スルノ罪ハ輕キニ

依テ除棄ス

謀同死條例

第百九十八條

凡姦夫姦婦同ク謀リ墮胎スル

ニ姦婦身死スル者姦夫ハ流三等改テ懲役三

年

第百九十九條 凡姦夫姦婦同死ヲ謀リ傷スト

雖モ人ヲ阻謀セラレ未夕死セサル者ハ闘毆

傷ニ一等ヲ減ス

滋賀縣同 七年三月十九日

改定律例第百九十九條ノ罪者アルトキハ

各其傷ノ輕重ヲ驗シテ罪ヲ定メ假令ハ姦

夫ハ篤疾ニ至リ姦婦ハ廢疾ニ至ルノ類姦

夫ハ人ヲ廢疾ニ致ス律ニ仍リ姦婦ハ人ヲ

篤疾ニ致スノ律ニ仍リ各丁等ヲ減シ

スルニ候哉

指令

伺之通

私和人命

凡祖父母父母及ヒ夫若クハ家長人ニ殺サレテ
 子孫妻妾及ヒ奴婢私和スル者ハ後三年ニ等親
 ノ尊長人ニ殺サレ私和スル者ハ後二年ニ等親
 以下各丁等ヲ遞減ス
 其卑幼人ニ殺サレテ尊長私和スル者ハ各等親
 ニ依テ卑幼ノ罪ニ丁等ヲ減ス若シ妻妾子孫及
 ヒ子孫ノ婦奴婢人ニ殺サレ祖父母父母夫家長
 私和スル者ハ杖八十財ヲ受ル者ハ並ニ贓ニ計

ヘ竊盜ニ準シ重キニ從テ之ヲ科ス常人他人ノ
 為メ二人命ヲ私和スル者ハ杖六十財ヲ受ル者
 ハ贓ニ計ヘ枉法ニ準シ重キニ從テ之ヲ科ス

私和入命條例

第二百條 凡家長人ニ殺サレ雇人私和スル者
 ハ懲役百日若シ雇人人ニ殺サレ家長私和ス
 ル者ハ懲役七十日

移地界内死屍

凡地界内ニ死屍アルヲ里長地主鄰佑人官司ニ
 申報セズ輒ク他所ニ移シ及ヒ埋藏スル者ハ杖

七十水中ニ棄ル者ハ杖一百因テ衣服ヲ盗取スル者ハ罪ニ計ヘ窃盗ニ準シ重キニ從テ論ス罪流三等ニ止ル

移地界内死屍條例

第二百一條 凡墳塚ヲ發掘シテ棺槨ヲ見ハス者ハ懲役一年已ニ開テ屍ヲ見ハス者ハ懲役三年屍ヲ殘毀スル者ハ懲役五年

第二百二條 凡地界内ニ死屍アルヲ輒ク水中ニ棄ルト雖モ未タ屍ヲ失ハサル者律ニ照シテ一等ヲ減シ懲役九十日

第二百三條 凡子孫ノ死屍ヲ棄ル者ハ懲役七十日

第二百四條 凡變死ニ係ル屍ハ官ノ檢視ヲ經ルニ非レハ私擅ニ埋葬スルコトヲ聽サズ違フ者ハ懲役四十日

第二百五條 凡人ヲ押解シ中途ニ在リテ病斃スルヲ輒ク棄法スル者ハ移地界内死屍律ニ一等ヲ加ヘ懲役八十日

第二百六條 凡地界内ニ棄兒アリ及ヒ病ニ因リテ昏倒スルヲ輒ク他所ニ移ス者ハ懲役七十日

十日

同行知有謀害

凡同群人他人ヲ謀害セント欲スルヲ知テ即チ

阻當救護セス及ヒ害セラレノ後官司ニ報告

セサル者ハ杖九十

同行知有謀害條例

第二百七條 凡同行謀害アルヲ知テ阻當救

護セスト雖モ已ニ害セラレノ後首告スル者

ハ其罪ヲ免ス

擬律必携三編上卷終

